



ときめきの瞬間



身近で起こる災害に備えて

6月22日(日)

今年度も災害図上訓練(DIG)が、市内8町で行われます。その第1回目が駄知公民館で開催され、自治会役員や消防団員など約120人が参加しました。参加者たちは区ごとに班に分かれ、マーカーで線を描いたりシールを貼ったりしながら防災マップを完成させ、地域内の危険な場所や避難場所などについて確認しました。



自分が救えるかもしれない命

6月30日(月)

市消防本部で救急救命講習会が行われ、市女性連絡協議会の会員ら23人が参加しました。万が一、人命に関わる場面に遭遇した時に「自分が率先して動けるように」という思いの下、協議会活動の一環として実施されました。参加者は、心肺蘇生法やAEDの使用法について、実技を交えながら真剣な様子で学びました。



親子で触れ合おう

7月2日(水)・4日(金)

なかよし交流会が下石小学校で行われ、全校児童とその保護者が参加しました。この会は、親子ミニ運動会(1年生)やおもしろ理科実験(3年生)など、学年ごとに違う授業内容を教師とPTAクラス委員が考えて行うもので、毎年開催されています。4日に行われたバルーン・アート(4年生)では、皆さんがこぎりながらも、親子で協力し、剣や花など自慢の作品を作りました。



楽しみながらトレーニング

7月11日(金)

泉西小学校で「トップアスリート出前指導」が行われ、全校児童が参加しました。新体操全日本選手権の優勝者などNPO総合体操クラブのメンバー5人が講師として指導を担当。ボールやフラフープを使ったユニークなトレーニングなど、楽しみながら体を鍛える方法を学びました。授業の最後には、講師による新体操演技が披露され、子どもたちは間近で見る一流選手の演技に歓声を上げていました。



明るい社会を目指して

7月14日(月)

社会を明るくする運動「中学生一日保護司による街頭啓発」と「青少年の非行・被害者防止全国強調月間の街頭啓発」が土岐市駅前で行われました。この啓発活動には、市内6中学校の生徒12人と、保護司会や更生保護女性会の会員ら約50人が参加。ポケットティッシュやクリアファイルなどの啓発物品を配りながら、「お疲れさまです。社会を明るくする運動です」などと通行人に声を掛け、啓発活動に取り組みました。

Voice

ティッシュ配りなどやったことがなくて初めは少し戸惑いましたが、受け取ってくれる人が多く、だんだん慣れて積極的に行うことができました。社会を明るくする運動に少しでも貢献できてよかったです。



土岐市の歴史を再発見!

7月12日(土)

今年度、第2回目の「ふるさと再発見!講座」が泉公民館で開催され、約60人が参加しました。この講座は、市の歴史や文化を知ってもらうことを目的として「土岐市をカンコウする会」が主催するもので、今年度全4回開催されます。参加者たちは、公民館で約1時間の講義を受けた後、浅野館跡、大富館跡の順に徒歩で移動。それぞれ現地で講師から説明を受け、市の歴史について学びました。次回は9月6日(土)に開催予定で、下街道に関する講義や、穴弘法、高山城跡周辺のウォーキングなどが予定されています。

